

「飛躍」に向けて!!

第6次松前町行政改革大綱を策定しました

これまでの成果と現状

1 第5次行政改革大綱の成果 (平成17～19年度)

平成16年2月の「単独でのまちづくり」の決定と同時に中期財政見直しを作成した結果、平成16年度から平成19年度の平均で単年度当たり2億5,000万円の赤字になることが分かりました。

直ちに庁舎・体育館などの施設の管理運営を見直すとともに、大学教授・住民代表などを委員とする「松前町改革会議」を設置し、松前町の問題点を新たな視点・発想で解決するため、全ての事項に共通する改革の基本方針と、補助金などの個別の見直し基準を策定しました。

これらを基に、平成17年度から平成19年度を「行政改革の集中年」と位置付け、住民の皆さんのご理解のもと、全庁一丸となって行政改革に取り組んだ結果、2億5,000万円の収支の改善を図ることができました。

各種の財政指標を基に改革前と改革後を比較し、成果を検証します。なお、

平成19年度については、決算見込み数値のため今後変わる可能性があります。

① 実質単年度収支【表1】

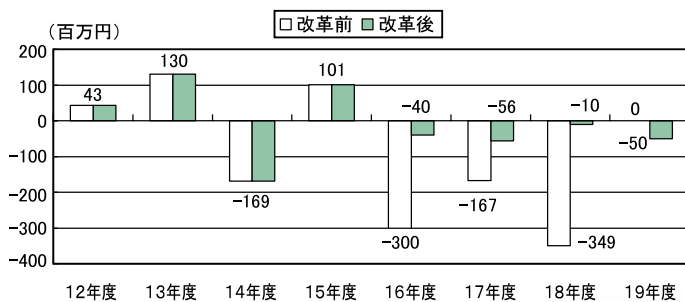
単年度収支に、貯金である基金の取崩し・積立て、地方債の繰上償還を加味した実質単年度収支については、平成15年度の財政計画では平成16年度3億円、平成17年度1億6,700万円、平成18年度3億4,900万円の赤字と見込んでいました。行政改革後においては、平成16年度4,000万円、平成17年度5,600万円、平成18年度1,000万円、平成19年度5,000万円の赤字となっていますが、大幅な改善が図れています。大幅な収支の改善が図れたものの行政改革後も赤字になっているのは、当初の財政計画で見込んだ以上に扶助費、特別会計への繰出しが増えているためです。

② 基金残高【表2】

貯金である基金は、改革前の財政計画においては平成15年度には21億円ありましたが、平成19年度には7

億7,000万円となり、約13億円減少すると見込まれていました。改革後の平成19年度は22億円となり、改革前より1億円増加しています。

【表1】 実質単年度収支



【表2】 基金残高

